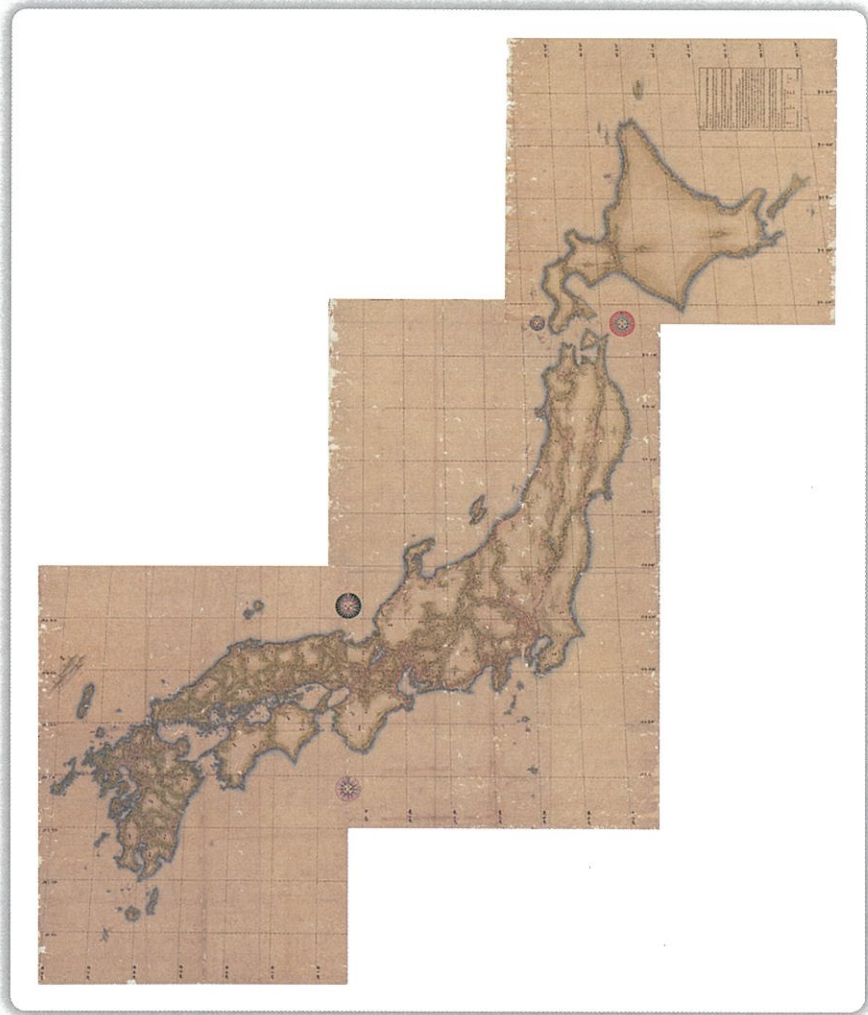


完成図 「實測輿地圖 (伊能小図)」 三図結合



實測輿地圖 (伊能小図)

伊能忠敬
文政4年(1821年)頃
ゼンリンミュージアム 所蔵

伊能忠敬測量隊によって製作された伊能小図(縮尺1/432,000)の副本。現地調査17年、地図製作4年の延べ21年の歳月をかけて作られた日本初の実測地図。

伊能忠敬測量隊の主な器具・資料



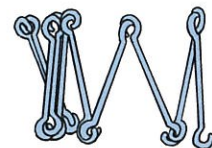
ごようばた
御用旗

伊能忠敬らの測量が幕府の公式事業であることを示すための旗。



ぼんでん
梵天

測量時に測点の目印として立てる棒。



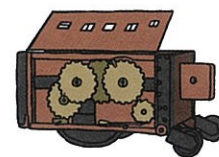
てっさ
鉄鎖

地点間の距離を測る道具。1尺(約30cm)の鉄鎖が60本つながれていた。



けんわ
間縄

地点間の距離を測る道具。持ち運びやすいが水分による伸縮や風の影響を受けた。



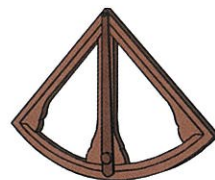
りょうていしや
量程車

歩いた距離を表示できる器具だが凹凸の激しい当時の道には不向きだった。



わんからしん
彎窠羅針

方位角を測る道具。常に方位盤を水平に保つ設計。



しょうしょうげい
小象限儀

坂道の傾斜角を測る道具。坂道の傾斜角と直線距離を測定して水平距離を算出した。



はんえんほういばん
半円方位盤

山や島などの方位角を測る道具。10分(1度の6分の1)まで読み取れるようになっている。



あらあず
麓絵図

測量先で沿道の風景を描写したもので、測量隊に同行した絵師や絵心のある隊員によって描かれた。